

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2025年3月25日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局 京都大学大学院 医学研究科 肝胆膵・移植外科

職 名 教授

氏 名 波多野 悦朗

助成の種類	令和6年度・国際会議開催助成		
国際会議名	(和文)2024年国際肝臓外科学会シングルトピック会議 (英文) ILLS Single Topic Conference 2024 in Kyoto		
開催期間	2024年 10月 1日 ~ 2024年 10月 2日		
開催場所	ホテルグランヴィア京都		
参加者	総数 511	内訳 国内 151名 海外 360名 (国・地域:51)	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	事業に要した経費総額	97,561,234 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 参加登録費、学会補助金、企業協賛費、日本製薬団体連合会寄附、上原記念生命科学財団等	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	事前準備費	18,032,040	
	当日運営費	8,226,776	
	会場設営費	28,673,450	1,000,000
	関連行事費	13,101,304	
招聘・接遇関係費	14,085,919		
全体進行管理費	3,441,745		
国際本部経費	12,000,000		
合 計	97,561,234	1,000,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) いただきました助成により、大変有意義な国際学会を開催することができました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。		

1 開催概要

- (1) 会議名： 2024年国際肝臓外科学会シングルトピック会議 (ILLS STC2024)
- (2) 主催： International Laparoscopic Liver Society
- (3) 開催期間： 2024年10月1日(火)～2日(水)
- (4) 開催場所： ホテルグランヴィア京都 (京都府京都市)
- (5) 参加状況： 51ヵ国・地域 511名 (国外360名、国内151名)

2 会議結果概要

2024年国際肝臓外科学会シングルトピック会議 (ILLS STC2024) を2024年10月1日(火)・2日(水)にホテルグランヴィア京都にて開催した。今回は2023年ローマと2025年ソウルで行われるILLS総会の中の年である2024年にFuture Advances in Minimally Invasive Liver Surgeryというsingle topicに絞って実施した。

1日目にSimulation and IR Navigation、2日目にRobotic Liver Resectionのプログラムを企画し、世界中からこの領域のエキスパートを招き、次世代を担う若手も含め肝臓外科医が最新の情報を共有し、交流や議論を行い、大変盛況であった。

プログラムとして、下記のセッションを実施した。

10月1日(火) Simulation and IR Navigation

開会の辞、Presidents Lectures, Experts Lecture, Faculty Lecture mini oral, Selected Free papers, satellite seminars, Luncheon seminar, Sponsored symposium

10月2日(水) Robotic Liver Resection

Next Generations' Session, mini oral, Selected Free papers, Best Oral Session, Best Video Session, satellite seminars, Luncheon seminar, Sponsored symposium, Award Ceremony, 閉会の辞
(詳細は、<https://www.c-linkage.co.jp/ills-stc2024/program.html> を参照)

結果的には世界中から511名の参加者が現地に来場し、国内外の研究者が活発な議論を行うことで肝臓外科手術の最新の情報を一層普及させ、日本の低侵襲肝臓外科が世界をリードする一助にもなった。

世代・研究背景・国籍の異なる多くの研究者が一同に集うことで、今後の加速的な研究の進展とともに臨床・医療への応用へとつながる大変有意義な国際学会を実施することができた。本会議の成功は多くのご支援の賜物と深く感謝する次第である。